

THE リアルタイム

Vol. 44

サポートセンター一連からお届けする地域生活支援情報誌



特集：ボランティアさん紹介！



INDEX

- P1 表紙／ごあいさつ
- P2～P3 今号の特集
- P4 日中活動支援事業
- P5 相談支援事業
- P6 生活支援事業
職員リレーエッセイ
- P7 一粒万倍
- P8 活動紹介コーナー
情報／編集後記

空白を作らない日々

年明けとともに新型コロナウイルス感染症オミクロン株が急激にまん延しています。重症化率が低いとはいえ、私たちが支援する方の多くは基礎疾患があったり、マスクの着用が難しい方もいます。日常的に職員が密接に関わって介助していることもあって、気を抜けない日常が続いています。

二月初旬、私たちの事業でも複数の方がコロナ陽性になりました。利用者さんやご家族はもちろん、私たち職員にとっても不安な数日間でした。

しかし、危機的な状況を体験できたからこそ、気付けたことや学べたことも多くありました。とりわけ、事業継続のための事前準備（計画）は、私たちの仕事に空白を作らないためにも、極めて重要な準備なのだ、あらためて身に染みて感じているところです。

コロナとの頭脳戦。その中で私たちの生活を前向きに捉え直す日々が続いています。

センター長 白鳥基裕

特集：ボランティアさん紹介

連では、日頃からボランティアさんが活躍されており、施設の周りの整備や利用者の作業補助などをしていただいています。今回は、みなさんにインタビューして、いろいろ聞いちゃいました！

インタビューは、【①どんなボランティアを行っているか ②ボランティアを始めたきっかけ ③やりがい】の3つでお聞きしました。

作業ボランティア

野々山さん



- ① 工房1でビーズ作業の見守り、利用者さんの朝の準備やお茶のお手伝い。
- ② 娘の学校行事の際に障害のある息子を預かってくれるところを探していたときに連を知りました。お返しをしたい気持ちからボランティアを始めました。
- ③ 皆さんが暖かく迎え入れてくれることがうれしいです。

作業ボランティア

赤尾さん



- ① 利用者さんの作業のお手伝い
- ② 子育てが一段落して、何か新しいことを始めようと思っていたところ、連のボランティア募集を偶然知ったのがきっかけです。
- ③ 週に1, 2回のほんのわずかな時間ですが、連の皆さんにいつも元気もらっています。このつながりを大切に、できるだけ長くボランティアを続けていきたいと思っています。

作業ボランティア

高梨さん



- ① 工房3Bでフェルト製品のストラップや値札のタグつけ、その他なんでも！
- ② 娘が連を利用していました。病気で亡くなってからも、連にたびたび顔を出していました。何かお役に立てればと思い、娘が所属していた工房で娘と同じフェルトの作業を続けています。
- ③ 連に来るのが楽しく、利用者みなさんと過ごすことが癒しになっています。

作業ボランティア

原さん



- ① 金曜日の午前中に工房職員の指示で動いています。
(利用者さんの作業準備やレクリエーションの準備や頼まれごと全て)
- ② 元々ドライバーをしていて、一戸スタッフに日中のお手伝いどうですか？と誘われました。
- ③ 自己啓発ができます。

園芸ボランティア
小松さん



- ① 連の玄関前や周辺の花壇の整備や木の伐採などを行っています。ボランティアの活動を初めて8年目です。
- ② 連の掲示板を見たのがきっかけです。どんなお手伝いができるか相談し、花壇の整備をすることになりました。
- ③ 利用者の皆さんと会ったり、お話ししたりするのがうれしい！

園芸ボランティア
内野さん



- ① パン工房周辺の整備やガーデニング園芸作業。季節ごとの花植え。
- ② 2年前に提供した蘇鉄の植え替えが必要と打診した時に、テラス周辺、生垣内の雑草等の荒れ果て状態を見かねて、申し出た次第です。
- ③ ガーデニング、菜園、植物・自然界が趣味の一つであり、軽作業による健康維持、清潔感、感謝されることもやりがいです。

イベントでのボランティア

音楽プログラム



オカリナとピアノの演奏会
司会進行は連の利用者が行っています！
皆さん一緒に歌って楽しんでいました。



日本舞踊の先生が来ていただきました。一緒に踊ったり、太鼓に挑戦したり、体を動かしながら体験しました。

年末イベント



大道芸は連の利用者と職員がアシスタントを担当し、みんなで盛り上がりました。

～ファンケルとのつながり～

(株)ファンケルは、イベントに社員さんを派遣して下さったり、利用者さんとの食事会を開いて下さったり、職員向けのマナー研修を実施して下さるなど、当法人が長年お世話になっている会社です。

12月になると、連の廊下にたくさんのクリスマスカードが飾られます。(株)ファンケルの全国の支社から届いたものです。コロナの影響でイベントが中止になるなど交流の機会は縮小気味ですが、クリスマスカードは(株)ファンケルとのご縁を思い出させてくれました。(担当：川浪)

規模を縮小しての交流会に参加。たくさんの職員に囲まれ少し緊張気味の青木さん。交流会では、製品紹介の挨拶をし、社員との交流を楽しんでいました。



ボランティアさん大募集！

サポートセンター連では、日中活動を中心に、ボランティアさんを募集しています。

利用者さんといっしょに製品作りやお散歩、おしゃべりを楽しみませんか？

お気軽にお問い合わせください。

TEL
045-360-9778

担当：成田



年始の会で一年が始まりました！

「来年こそ皆で年始の会ができるといいな」と思った昨年1月から早1年。残念ながらその願いは叶わず、今年も小規模での開催になりました。

今年の年男年女は4名と例年に比べて少ない人数でしたが、毎年恒例の巨大書き初めをしました。コロナ禍のため、年女の利用者の瀬川さんにはご自宅からオンラインで参加していただきました。年始の会としては初の試みでした。

各工房からも1名~2名の利用者が参加し今年1年の抱負を発表。「楽しい年にしたい」「元気に連に通いたい」「たくさんお金を稼ぎたい」など個性あふれた抱負を発表しました。

コロナ禍になってから約2年。「コロナだから

外出できない」「人と会う機会が減った」という方が多いでしょう。連でも外出の機会が減り、イベントなども中止になってしまうことが増えました。それでも何か「できることを」と考えた年始の会。直接でなくても相手の顔を見て話ことの大切さ、共通の話題で盛り上がる楽しさ・尊さを感じられました。（担当：平山）



【寅】の一字を参加者全員で豪快に書き上げ、瀬川さんもご自宅から真剣な表情で応援していました。



アルミ缶リサイクル活動の持つ可能性

私たちサポートセンター連の日中活動では、開所当時から、近隣地域にお住まいの皆様からご協力を得てアルミ缶のリサイクル活動を行っています。回収いただいた缶は連の缶作業場で洗い、仕分けしたあと袋に詰めてリサイクル業者に納品。売上は活動に関わった利用者さんの工賃になります。

今日も缶作業場では缶をプレスするガシャン・カタカタという金属音が響きます。作業場では、お話し好きな若手さん、威勢の良い声を響かせるベテランさんも真剣な表情で缶を潰し、黙々と袋に詰めています。暑い日も雪の降る寒い日も利用者さんはこの活動を選び、作業場に足を運びます。回収先が増え、缶の量が増えたことにより、どんな方でも希望があればいつでも参加できるのがこの活動の魅力。今では利用者さんの「やりたい、と思う活動の一つにこの活動が選ばれることも増えてきました。

地域の皆様の支えによって、障がいのある方の働く意欲や、やりがい引き出されているこの活動だからこそ、大切にしなければならない活動の一つだと思っています。

（担当：天内）



第 14 回旭区地域生活支援フォーラム

「助けて」と言える地域づくり！～障害のある人も孤立しない暮らしに向けてなにができるか？～

今年で 14 回目となる旭区地域生活支援フォーラム。障害のある方をより身近に感じてもらう啓発の機会として地域活動ホーム連の立ち上げ以来、毎年開催しています。

今年は『助けて』と言える地域づくり！～障害のある人も孤立しない暮らしに向けてなにができるか？～をテーマに 12 月 11 日(土)オンラインで開催しました。

より多くの方に知っていただきたい！という思いから、区内地域ケアプラザ数か所に視聴会場を設置していただいた結果、230 名を越える方にご視聴いただきました。(担当：高橋)



○第 1 部 基調講演

～「助けて！」と言える地域づくり！

講師：奥田知志氏 (NPO 法人 抱樸)

社会的孤立が現代社会の抱える課題になっていることをテーマに、問題の解決を目指す解決型支援から「つながり続けることを目指す伴走型支援」の必要性について講演されました。

「専門的な支援だけでなく、家族の支援のような当たり前のつながりがいかに大事か改めて気づいた」という地域の参加者からの声や「伴走型支援である『つながる』と『孤立させない』支援をしたいと思います」と支援者からの感想が聞かれました。

○第 2 部 シンポジウム

～障害のある人も孤立しない暮らしに向けてなにができるか？

登壇者：又村大地氏 (区内在住の障害当事者)
佐藤進氏 (鶴ヶ峰地区社会福祉協議会会長)

一人暮らしを始めた又村氏から「助けて」と言えない心境や困り事などを伺い、佐藤氏は「助け上手と助けられ上手」の関係性で孤立しない町づくりを目指しているとお話されました。

アンケートでは「福祉サービスだけでなく、地域との繋がりも入ることで、又村さんが安心して暮らせるようになったら良い」など多くの方から感想が聞かれました。

～～第 2 部に登壇した又村大地さんに当日の感想を伺いました！～～



Q. フォーラムに登壇して、どうでしたか？

A. とても緊張しましたし、うまく伝えられるか不安でしたが、聴いた方から「よかったよ」と声をかけていただき、安心しました。

Q. 今後やりたいことを教えてください。

A. コロナが収まったら、野球観戦やライブを見に行ったり、焼肉やお寿司を食べに行ったり、色々なところに出かけてみたいです。
それから、いつか沖縄などへ旅行に行ってみたいです。

余暇活動でランプづくりを開催！

11月27日（土）。成人期の方を対象に2時間の余暇を行い、6名の方が参加しました。ランプキットに可愛らしいクマやハートを描く方、ハサミで切り取ってボンドで貼る細かい作業を器用にこなす方、「カッターは使ったことがない」と言っていたところ「やってみる！」と意欲的に取り組む方……一人一人のドラマが見えた時間でした。気持ちに波があり参加できるかどうかという方もいましたが、笑顔で参加され「やってよかった！」と積極的な言葉を聞かせてくれました。ご家族からも生活支援事業への問い合わせをいただき、今後つながるきっかけにもなりました。

密にならないように距離を空けての開催でしたが、参加者の皆さん同士の新たな出会いや再会が心の距離を近づけたなら、スタッフ一同うれしく思います。

2月5日（土）は万華鏡作りを行う予定でしたが、まん延防止等重点措置のため中止になりました。また余暇活動を再開できる日を楽しみにしています！

（担当：大野）



支援者の意気込みや思いを語るリレーエッセイ

Good Job!

日中活動支援の醍醐味とは

連に入職して13年目になりました日中活動支援の羽田です。

日中活動支援とは「介護を必要とする障害のある方に対して主に昼間に、入浴・排せつ・食事の介護等を行うとともに、創作的活動や生産活動の機会を提供します。」と法律で定められています。しかし、この仕事にはそれだけでは推し量れない魅力があります。

この仕事は「一人の人として存在を肯定する」という言葉に尽きると考えています。これまでの「〇〇してあげる」「〇〇させる」という、指導や訓練、保護の対象というイメージが根強くあります。障害のある方が自分たちでサービスを選ぶ総合支援法に変わって10年以上たった今でも、そのイメージは福祉従事者の中にも少なからずあると感じています。

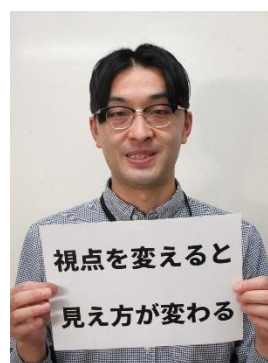
障害のある方に対し、「何で（職員の）言うとおりにしないんだ！」という目を向けるのではなく、「どうしてそうなっているんだろう？」と相手の言動、行動に「思いをはせること」、そして「できないこと」ばかりでなく「その人ができること、その人らしさ」

に注意深く着目し、ちょっと視点を変えればグッとモノの見え方が変わることが、この仕事の魅力なのだろうな、と思います。

最近、通勤を自転車に変えました。毎日最速タイムを目指して通勤しています。

元々仕事はプライベートに持ち込まない事を心掛けているので、行き帰りのハードな自転車ワークで心も身体も切り替えられる感じがしています。

次のバトンは、基幹相談の滝澤さんに回したいと思います。



羽田 航（はだ・わたる）

福祉系の大学を経て連に入職。就職してから職場を変えていません。福祉的な視点に偏らない為に色々なものに興味関心を持つ事を心掛けています。

「利用者さんと実習生のかかわりから学ぶこと、伝えたいこと」

連の日中活動支援事業では、資格取得のための大学生や専門学生の現場実習を毎年 50～70 名受け入れています。ここ 2 年間はコロナ禍の影響により、予定していた実習が中止になることもありました。感染防止対策を徹底しながら継続して受け入れています。実習生が取得を目指している資格は、福祉関係だけでなく看護師などもあります。

連が多くの実習生を受け入れている大きな目的は 2 つあります。

1 つ目は、人材確保。昨今、福祉に携わる人材が不足しているということをよく耳にされると思いますが、実習生を受け入れることにより福祉全般の人材確保につなげていきたいと考えています。現場実習は仕事や職場の魅力を直接伝えられる機会であり、「働いてみたい仕事、職場」と感じてもらうことを大切にしています。

2 つ目は、私たちが働く上で、利用者さんとの関わりをあらためて見つめ直す機会になることです。

実習生は、障害に関する専門的な知識を勉強されている方もいらっしゃいますが、実際に障害のある方と関わった機会については少ない方がほとんどです。そのため、私たちが当たり前に行っている利用者さんへの関わり方や声掛けなどについても、実習生の客観的視点からすると疑問に感じることもあるようです。

さて、実際に実習生が来た時に何を学んでいただくかについてです。作業活動などのサポート、水分や食事の介助などさまざまなことに携わっていただきますが、何よりも利用者さんとの関わり、コミュニケーションを一番にお願いしています。もちろん、障害によ

って利用者さんと言葉でコミュニケーションを取るのが難しい場合もありますが、各利用者さんとのやり取りの仕方を伝えながら行ってもらっています。実習生も初めは緊張と戸惑いでどうしてよいかわからない様子も見られますが、少しずつ自然にやり取りできるようになります。

実習終了後に行う振り返りで、ある実習生から「実習の初日に自分が何をすればよいかわからず不安と緊張で立ち尽くしている時、利用者さんが近づいてきてくれて『好きな曲はなんですか?』と聞いてきてくれたんです。そこから利用者さんとの会話が始まり、緊張感も無くなり、その後の利用者さんとのやり取りも自分から積極的にできるようになったんです。本当に利用者さんに助けられました。」と話がありました。緊張し、戸惑いながらの実習の中、利用者さんが自分のことを気に掛けてくれたことが素直にうれしく、自分なりにやってみようと思えるようになったのだそうです。また多くの実習生が「活動の場面で利用者さん自身からやり方を教えてもらえたりして、最後まで楽しく実習できました」と利用者さんへの感謝の言葉を口にします。

あらためて感じるのは、実習生にこの仕事の魅力を伝えるのは職員だけではないということです。「職員が利用者さんと実習生とのパイプ役になって…」と考えてしまいますが、利用者さん自らが実習生を気に掛け、関わってくださっています。実習生を受け入れるたびに、この仕事の魅力を伝え後々の人材確保に繋げていくためには「職員だけでなく利用者さんとともに…」ということに気づかされるのです。 (担当:小原)

地域交流

今年度は、南万騎が原駅前「みなまきラボ」の会場を中心にミニイベントを開催。地域の親子さん達と楽しい時間を過ごしました。

駅前のラボ会場は、お買い物に来ている通りすがりの親子さんも参加しやすく、毎回たくさんのキッズ達が立ち寄ってくれています。

もちろん「おもちゃ文庫」に遊びに来ている、いつもの皆も参加してくれていますし、おもちゃ文庫を卒業し、幼稚園生や小学生になった懐かしい顔にも偶然会える！これも駅前の良さだな…といつも感じています。



夏に開催した「キッズサーキット」ではボウリングやピンボールなど、ゲームを行い得点を競いました。

12月に開催した工作イベントは、14組30名の親子さんが参加し、クリスマスリースを作りました。



駅前でイベントを開催していると、地域の大人たちも「今日のラボは連さんのね！」と声をかけてくださいます。地域交流室のご利用や缶回収などで、日頃から私たちと交流してくださっている地域の方々にも出会える会場なのです。

次年度も、この駅前のラボや連の施設内で色々なイベントを企画予定です。「0歳からの絵本でふれあい」講座や、大人も楽しめるドライフラワーを使ったワークショップイベントなども企画中です。

みなさん、ぜひご参加ください。（担当：禾木）

今月のイチオシ！

新商品やおすすめの自主製品を紹介

ギフトバッグ

¥150/3枚入り

デザインやイラストは、パソコンで制作しています。

私は障害があってマウスを動かせないで、首の動きを感知する特殊なセンサーと右手のスイッチでパソコンを操作して、イラストを描いています。

通年使えるデザインや季節のデザインなど、バリエーションを増やしていく予定なので、お楽しみに！



製作担当：又村さん

Facebookでは、イベント情報なども随時更新中！

<https://www.facebook.com/supportcenterren/>



INFORMATION

- 年度初めの会
4月1日（金）
- 0歳からの絵本でふれあい講座
5月に開催予定 対象：地域の親子さん

※地域の方を対象としたイベント詳細は、連の掲示板でお知らせします。また、各種イベントは感染者拡大の状況に応じて中止となる場合があります。

編集後記

- 1年間お疲れさまでした。来年度こそ明るい世の中が戻ってきますように。（野村）
- 脱皮のごとく、着ている服が薄着になっていますが、まだヒートテックは脱げません。（水野）
- 新年度に向けて断捨離しているのに物が減らず困っています…。（山野上）
- 広報委員の編集技術が上がってきた頃、今年度の広報委員会は解散です。お疲れ様でした！（田村）

サポートセンター連 機関紙 「THE リアルタイム」 第44号（令和4年3月22日発行）

発行者：サポートセンター連・広報担当 住所：横浜市旭区柏町59-2 TEL 045-360-9778 FAX 045-360-7004

社会福祉法人 訪問の家 ホームページ <http://www.houmon-no-ie.or.jp>

旭区地域自立支援協議会 ホームページ <http://asahiku-net.webnode.jp>

当法人への寄附金は、「寄附をいただいた方の「所得税（国税）」の所得控除及び「横浜市」の個人市民税、「神奈川県」の個人市民税の「寄附金税額控除」の対象になります。 ※ただし、二千元を超えた額が対象です（寄附額二千元以上）。ご不明な点は、訪問の家本部事務局（電話045-894-4640）にお問い合わせ下さい。